



今回は 川島地域ケアプラザが取り組むご高齢の方を支える仕組み・ネットワークについてお伝えします。

認知症サポーター養成講座



- 認知症サポーターとは認知症のことを正しく理解し「友人や家族にその知識を伝える」「認知症になった人や家族の気持ちを理解するよう努める」「隣人あるいは商店・交通機関等、まちで働く人として、できる範囲で手助けをする」など地域で暮らす認知症の人やその家族を見守る応援者です。
- 川島地域ケアプラザでは認知症サポーターを養成する講座を各町内会や商店、学校等に出向き実施しています。ご要望があればぜひご連絡ください。

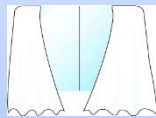


川島地域見守りほっとライン

- 地域の住民の方や見守り協力事業者が訪ねたお宅あるいは高齢者の異変に気付いたときにケアプラザへご連絡いただきます。ケアプラザにてその方の状況確認を行うことで地域の高齢者をさりげなく見守っていきます。



新聞などが
3日以上たまっている

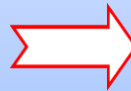


カーテンや雨戸が
何日も閉まっていたり
開いた状態になっている



ただならぬ怒鳴り声や
悲鳴が聞こえる

こんな時は・・・



川島地域ケアプラザ
へご連絡ください。

川島SOSネットワーク



- 川島地域ケアプラザエリア内（川島町、東川島町、西谷町）在住の認知症などの症状で徘徊する高齢者が行方不明になった場合に川島地域ケアプラザ独自のネットワーク（タクシー、銀行、コンビニなど）を利用し、早期発見・保護を目的とした仕組みです。
- ご家族などが徘徊して行方不明になってしまった場合や徘徊する可能性のある方がいらっしゃいましたら川島地域ケアプラザにご連絡ください。

☆お気軽に川島地域ケアプラザへご連絡ください。

横浜市川島地域ケアプラザ 地域包括支援センター

045-370-1550 (代表) 担当 福島 早川 石澤

いつもと違った感じがする・・・ちょっと心配！！「新聞紙が3日以上たまっている」「カーテンや雨戸が何日も閉まったり、開いた状態になっている」こんな時はお気軽に川島地域ケアプラザへご連絡ください。

川島市川島地域ケアプラザ

ただならぬ怒鳴り声や
ただならぬ怒鳴り声や
悲鳴が聞こえる
悲鳴が聞こえる